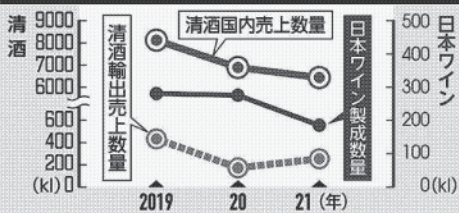


中学生向け 年 組

(2023年3月30日付・下野新聞11面)

県内の清酒売上数量と日本ワイン製成数量の推移



清酒を都道府県別で見ると、国内の売上数量は兵庫県が最多の8万6733キロリットル、京都(7万1637キロリットル)、新潟(3万4425キロリットル)、埼玉(1万8872キロリットル)と続いた。本県の数量の順位は前年より二つ上がって12位、売上額は前年と同じ16位だった。

国税庁が29日までに公表した「酒類製造業および酒類卸売業の概況(2022年アンケート)」(21年1〜12月)によると、本県の清酒製造業(回答21製造者)の国内での売上数量は前年比6・6%減の6435キロリットル、売上額は4・2%減の35億9500万円といずれも2年連続で減少した。新型コロナウイルス禍などで減少したとみられる。一方、輸出は海外での認知度向上などがあり数量、額ともに2年ぶりに増加に転じ、輸出量は47・4%増の255キロリットル、輸出額は51・1%増の1億3600万円だった。

21年本県製造

清酒、国内売上量6%減

コロナ影響か、輸出は増

輸出を比べると、数量のトップは国内と同じ兵庫県で6953キロリットル。売上額は山口県の70億2000万円が最高だった。本県順位は数量が一つ下がって11位、金額も一つ下がり21位。国内、輸出を合わせた数量全体における本県の輸出の割合は3・8%だった。

事業所(酒蔵)から出荷された清酒の量を示す本県の課税移出数量は、県内が1286キロリットルで全体の22・3%だった。関東信越5県への出荷は1015キロリットルで割合は17・6%。それ以外の東京などの都道府県が3471キロリットル、60・1%に上り、全国への出荷割合が前年より増えた。

一方、本県のワイン製造業(回答8製造免許場)が国産ブドウを原料に醸

造した日本ワインの製成数量は32・6%減の186キロリットルで、2年連続減少した。

本県のワイナリー数は全部で9場あり、全国13位。都道府県別でトップは山梨で94場、次いで長野65場、北海道53場。日本ワイン製成数量の最多は山梨県の4856キロリットルだった。

本県の製造・卸売業(回

答数19)の酒類全体の輸出状況は数量が22・4%増の279キロリットル、金額は24・7%増の2億700万円だった。内訳は清酒が最も多

く、リキュール、ビールと続いた。主要品目の主な輸出先はオランダが1位で、米国、フランスの順だった。

設 問

【1】清酒の製造所を酒蔵というのに対して、ワインの製造所を何というか。記事中から抜き出しなさい。

【2】次の熟語の読みをひらがなで書きましょう。

- ①認知
- ②醸造
- ③卸売

【3】次のアからエの文のうち、記事の内容と異なるものを一つ選びましょう。

- ・ア 県内における、21年の清酒の国内売上数量は、輸出売上数量の4%にも満たない。
- ・イ 兵庫県における、21年の清酒の国内売上数量と輸出売上数量は、ともに、全都道府県中1位であった。
- ・ウ 山梨県の21年の日本製ワインの製成数量は、栃木県のそれと比較して、20倍以上にも及ぶ。
- ・エ 本県における21年の清酒国内売上数量と売上額は、ともに減少したが、その原因は新型コロナウイルスが影響している可能性がある。

【4】図表について述べた文①②の〈 〉に当てはまる適切な語句を選びましょう。

- ①本県の清酒売上数量と日本ワイン製成数量は、19年から21年にかけて〈 〉減量した。
- ・ア ほぼ同じくらい

- ・イ 前者の方が多く
- ・ウ 後者の方が多く

②本県における、20年の日本ワインの製成数量は、およそ〈 〉である。

- ・ア 6000キロリットル
- ・イ 275キロリットル
- ・ウ 200キロリットル

【5】清酒の輸出が21年に増加した理由について、記事で挙げられている理由を書きましよう。